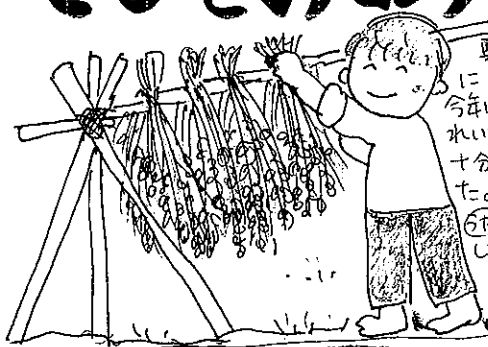
令和5(2023)年10月2日発行　第149号

こびとのおうちえんLetter 10月号



栗、むかご、あけび、柿、おさんぽにいくのが楽しい季節がやってきた。今年はあけびをちょうどたべごろのきれいなときにあっきーやよしみさんがとってきてくれてあまーいのを十分たべさせてもらった。赤とうもろこし、小豆も無事収穫できた。イノシシがきてたおしたときは、さすがにあせった。5回はうたが心配して見にきてたおれたのをおこすのをてつだってくれた。赤とうもろこしおいしかった！　さて、秋の味覚、どんどん楽しもう。そうだ、モクズがニもみんなで味わいたいね！

よっこのちょこっとおうちえん日誌～日々のあれこれ

かいとの仕事ぶりがすごい。おうちえんの裏の木の葉や枝を全部とりのぞくのを手伝ってくれた。せまいので作業もしづらい。ムカデが出てきてもあせらず対処。そして何より仕事が好きで、やりたくてやっていて、しかもその軽やかさと徹底的に丁寧な仕事ぶりと今のかいとのすごく柔らかな心に私は日々いやされている。仕事を終えると「川プール行ってくる！」と去っていった。(9/8)

ゆうが、犬かきできるようになった。川プールでちょっとづつ進化していった。浮けるようになると、うれしくて何回も何回も泳いだ。次の日が筆積で泳ぐさいごの日。できるようになったばかりの犬かきをライフジャケットはずして泳ぐ。ひたすら犬かき。ゆうは、手前中ずっと、はあはあ言いながら「いくよ！」と言って、泳いでいた。うれしくて、たのしくて。おなかすいたーとお昼ごはんをもりもり食べてた。ゆうの声がよくきこえるようになってきた。(9/15)

うたは最近、独自の動きをしている。フラフープ。ボールあそび。やりたい！と思いついてやっているようであり、1人でいることを選んでいるようでもある。おままごともしんでやっているときがタイ。それはそれでいい。　おさんぽもスタッフと2人のときとかもよくあった。亀の池に行く。走っていく。エネルギーはあまっている。元気。おしゃべりもたくさん。着くとしばし静かな時間。池にはっぱの船をうかべたり、ギンヤンマをみていたり。おだやかで幸せだ。そして、また走って進む。2人だけの時間。そして、あー、なんだか近くてうれしいなあと思うのと、うたを子どもたち同士の中へかえしていきたいなあと思うきもちもでてきた。(9/20)

雨が少ないので、最近は川プールをためるのに1時間かかる。その待っている間にバナナおにをする。バナナおにが熱となっている。バナナおにー→川プールの流れがすごく気もちいい。今日のバナナおには4ターンくらい連続でもり上がった。水のみ休けいもないほど。たのしい!!(9/20)

M.M.(かほ小)が「おはようございまーす!!」口調が私そっくり。「ジャンプ」しておわったあと、私が「はぁはぁ」息をととのえていたら、「はぁ、はぁ」もマネしている。(9/9)

9月はこんなことしました

- 室積でおよぐ
- 川プール
- イチジクとり
- くりひろい
- 馬島であそぶ
- ブルーベリーとり
- 日向平さんぽ
- クワガタとり
- 亀つり(まりふ)
- アゲビ、ムカゴとり
- 山の広場で遊ぶ
- ばなながおに
- ダム作り
- ボールころがし
- モクズガニとり
- 萩原ぐるりコースさんぽ
- 田布施の大岩にいく
- イモリとり
- ギンナンひろい
- 根笠りであそぶ
- ゼリー作り
- 大なわとび
- 焼き栗
- 赤いとうもろこし、小豆収穫
- だるまさんがころんだ
- 栗クリームのせパンケーキ
- ギンやんとり　作り
- くずの花茶、つくり
- フラフープ　etc…

キッチンスタッフより

2月から始まった職業訓練が無事に終わりました。

受講を決める前は、毎日徳山まで通えるだろうか、どんな人がいるのだろうかとか、色々と考えていたのですが、受けてみたい内容であった事やタイミング的にも今かなと思い、思い切って飛び込んでみました。

初めの頃は緊張続きでしたが、新たな出会いや久しぶりに学校で学ぶというのも新鮮で、色々な気付きや学びがありました。試験が続いたり少し大変な時期もありましたが、皆さんにも応援をして頂き走り切る事ができました。本当にありがとうございました。

9月からは再び久しぶりのキッチンで、初めましての子どもたちもいましたが、早速「ようこさーん！」と話しかけてくれて嬉しく思っています。

先日は、落ちている栗のイガを子ども達と一緒に遊びながら楽しく拾いました。子どもの発想は本当に自由で、楽しいです。肩の力を少し抜いて頭も心も柔らかく、可愛い皆んなとこの秋を楽しみたいです。

谷　洋子

おたんじょうびおめでとう!!

4日　まつもとちほちゃん(4さい)

10月のペアレンツグループ

25日(水)　13:00～15:00

場所　もみじのいえ

内容　フィーリンググループ

今の自分をゆっくり味わう時間。メンバーの今と耳を傾き合う時間。

※参加の方は事前におしらせ下さい。当日もOK

ペアレンツグループの朝、一人のお母さんが「参加します。でも、自分が話すと場の空気が重くなりそうで心配。。」と話した。私は、そういう時のためのグループで、そんなときこそこの場を利用してほしいと伝えた。

今、わきあがってきたおもいを語り合い、聴き合う。自分や他人の気もちに丁寧に触れていくとき、知らず知らず、自分の問題が整理され、自分を受け入れることができて、少し楽になる。

大前提として、場に安心しているかどうかというのが問われるので、それは私の大きな課題だな。

ただの世間話でも雑談でもない、好き勝手にしゃべりまくるでもない、自分を閉じて沈黙しつづけるでもない、心の中にある流れている気もちをそのまんま飾らずに言葉にする。そして、「結論を出す」や「答えを求める」や「問題解決する」といったことを目的としない。

実際のグループは、重い空気になるどころか、あたたかさにあふれていったのだ。なぐさめようとか元気にしようとかそういう安易なものではない。それは、参加者が本音を語り合い、しっかり心を寄せて聴き、また自分自身でいた、というのが大きい。(いつもそういう場になるともかぎらない)

私がずっとこれ(聴き合う、伝え合う)を芯にしてやっていこうと取り組んできて(自分の実力のなさや器の小ささはわかっているが)、でも、そんなもんに意味はないとはね返されたようなおもいをしていたのでどろだったので改めて原点に帰れたような時間だった。

ペアレンツグループの次の日、OBのお母さんに声をかけられた。「ペアレンツグループが月1回あるのがちょうどよかった。自分の心には波があるから。それが整うんだよね。」って。「最近ちょっと気持ちが下がってるんだよ…。」とりしこぼして。そういう会話もうれしいと思った。

もうひとつ、ペアレンツグループでためしたこと。輪になってすわって、はい、どうぞ、とする前に(その場に必要と感じたから)動いてみよう！でスタートした。動くと心を感じやすいから。やってみたい。「ジャンプ」を歌いとび、「せんろはつづくよ…」で列車やトンネルになり、こどもたちが朝やるように。自分の心のままに居よう、と。やりたくない、もあり。それをやったことに、私としては手応えを感じた。体を動かすとその人がより出る。自分自身の行動・思考・人との関わり方のパターンも見えてくる。そして純粋にやっぱり自分の心を感じやすいのだ。

宮野　嘉子

10月のスタッフプラン

いねかり

12日(木)おべんとうのひ

もう1回！馬島であそぼう

- おべんとうの準備をよろしくお願いします。
- 渡船料(60円)もおねがいします。

＿＿＿＿＿の様子をおしらせします。